

## 第3回 開催報告

## 出席者

## 【委員】

出席者：黒田晃司、永谷嘉規、永井明子、小林智尚、水内智英、  
谷口清治、齊藤公彦、柴田永治

欠席者：なし

（順不同、敬称略）

## 【みたけ政策アドバイザー】

出席者：野中幸広、佐藤金吾、可知和徳

欠席者：なし

（順不同、敬称略）

## 【事務局】

町長 渡邊公夫

総務部長 寺本公行

企画調整担当参事 葛西孝啓

企画課 各務元規 高木雅春 川上敏弘

## 次 第

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 【報告】
  - (1) 若手職員制作検討プロジェクトチーム 政策提案報告
- 4 議題
  - (1) 御嵩町人口ビジョン（案）
  - (2) 御嵩町総合戦略（仮称）基本目標について  
～「しごと・経済が元気！」「モノ・コトが元気！」～

## 配布資料

- 次第
- 第3回みたけ創生有識者会議委員名簿
- 資料1 若手職員政策検討プロジェクトチーム 政策提案報告
- 資料2 御嵩町人口ビジョン（案）
- 資料3 基本目標「しごと・経済が元気！」
- 資料4 基本目標「モノ・コトが元気！」
- 資料5 第2回みたけ創生有識者会議 議事録・議事概要

## 会議で出た主な意見

## ▶ 御嵩町を住まいの場として選んでもらうには

## 住居についてのPR

- 中古物件を購入する人が多い。
- 御嵩町の物件があまり広く周知されていない。名古屋市不動産などにアプローチするなど、広域で考えていった方がよい。

## 教育面からのPR

- マイカー通勤をしている人が多く、職場と家が近いことはそれほど重要ではない。それよりも、「教育環境がよい」「子育て支援が手厚い」といったことをアピールしていった方がよいのではないか。
- 教育は人を呼び込む力がある。
- 特別な支援が必要な子をマンツーマンで支援したり、県とは別に教員を16～17人プラスで雇用したりしている。ぜひこうしたことを宣伝していきたい。
- 全国の幸福度をみていると、「教育が重視されている」というところで幸せを感じる人が多くなっており、教育がまちづくりのなかで大きなウェイトを占めていることがわかる。

## ▶ 御嵩町の「まちづくり」

## 賑わいを取り戻す

- 旗印になるような面白い見せがあるところは、そこが核になって発展したりする。「御嶽宿わいわい館」を活用したそうした取り組みも考えていく。
- 名鉄電車の存続は何としてもやっていくべき。可児市も、御嵩町あつての可児市である、という面もあるため、市町村の行政連携も大切である。

## 「まちづくり」は「人づくり」

- 郷土愛を育むことで、進学を機に町を出たとしても、就職・結婚を機に、人を連れて帰ってくる人が増える。
- 御嵩町は「ヒストリー」は抜群である。歴史のあるまちに育ったというプライドに価値を求める人に訴えていくのが良いと思う。
- 昭和の時代の「長男だから地元に変えるべきだ」という考え方の復権も、ある意味では必要だと思う。
- 人と人のつながりが大切である。いろいろな形で住民を巻き込み、住民主体でやっていかないと、新しい魅力ある地域づくりは難しいのではないか。

## ▶ 農業について

- 御嵩町で就農するにあたり、人の親切さ、安心感というのも決め手となった。
- 食品の偽装問題なども発生しているが、人と人のつながりがあれば、そのようなことも起こらないと思う。
- 組織に頼らない農業と、組織化・ビジネス化した農業とあるが、いろいろな農業のやり方・多様性のなかでバランスを取っていくことが大切である。
- 集落営農の難しさも感じているが、組織化することだけにエネルギーを使うのではなく、小回りやスピード感を大切にすることが必要である。
- 「空き家条例」があるので、「空き地条例」もつくってほしい、という意見もある。農地を活かすように仲立ちをする人も必要である。

## ▶ 商業について

- 地元の商店でも、親世代で終わっていくのか、というところもあるが、家業を継いでいくのであれば、商工会の青年部も方を盛り上げていく必要がある。
- 先代の目もあり、若い人がお手伝い止まりとなっている現状がある。ある程度若い世代に任せる「世代交代」が大切である。

## ▶ 雇用・働き方について

- 有機農家で「後を継ぎたい」という人も多い。親父の背中をどうみせるのか、ということが大切であり、同じ意味で、御嵩町にある優秀な企業を子どもたちに知ってもらうような取り組みが必要である。
- 自治体は良い企業だと思って誘致をしてくれていると思うので、地元採用ができるよう、行政が動いてくれるとうれしい。
- 産前・産後休暇や育児休業などの制度整備により、結婚・出産で退職する人が減っている。ただし、その間の人員補充が大変ではある。
- 働きながら子どもを育てる母親の負担は大変である。地域で温かく見守る仕組みができれば、御嵩町の良さが口コミで広がっていくのではないかな。
- 名古屋市に働きに出ている人などは通勤に時間がかかり、子どもが病気になっても帰宅時間がどうしても遅くなってしまう。そういったこともあり、やはり名古屋市に住もう、となってしまう。病児保育を行っていく必要がある。